

前回（第2回）委員会の後日提出意見

- ・ 前回（第2回委員会）委員会後に提出された意見の全文及び委員会当日の質問に対する後日回答の内容について記載しています。

（注）意見中の資料番号は、前回（第2回委員会）のものです。

調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会からの意見具申について

■意見Ⅰ

資料2の「意思決定支援と地域生活における経験保障の推進」は、今後の計画において非常に重要な視点だと考えています。

失語症のある人の場合、本人に意思がないのではなく、自分の意思を言葉で表すことに時間がかかったり、うまく言葉にできなかったりすることがあります。

そのため、意思決定支援では、「本人に聞いたか」だけではなく、

- 本人が考え、答えるまで十分に待ったか
- 言葉だけでなく、文字、絵、指差しなど複数の方法を使ったか
- 支援者や家族が本人より先に決めてしまっていないか
- 最後に本人へ「これでよいですか」と確認したか

ということまで含めて考える必要があると思います。

「意思を表すのに時間がかかること」と「意思がないこと」は、全く違います。

また、「自ら選択し、試し、失敗し、再び挑戦する」という経験を保障するためにも、まず本人が自分で選ぶことのできる環境が必要です。

そのため、今後の計画の中で、意思決定支援を単なる理念としてではなく、本人が意思を表すための時間を保障すること、コミュニケーション方法を工夫すること、本人の意思を最後まで確認することまで含めた具体的な支援として位置付けていただきたいと思います。

失語症に限らず、意思を言葉で表すことに困難のある方にも共通する課題だと思います。

本日の発言の補足意見として、今後の計画策定の議論に反映していただければ幸いです。

■意見 2

◎資料 2・令和 8 年度調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会

>意見具申①の部分、支援が途切れやすい状況、支援の引継ぎ情報～仕組み構築

この点につきまして、かなり前から調布市では「I ファイル」というものがあり、そのツールが仕組みとして動いていると思いました。ただそのツールが現在どう活用・評価を受けているかわかりませんが、主に知的障害の方（特に重度？）は活用されているように感じます。一方で、軽度の知的の方では、そのツールが渡ってきたことはほぼなく（すどつくではありません）、支援が途切れていることが多々あります。精神の方も同様に、私も同じ引継ぎツールや仕組みが必要と感じています。

- ・例…ご本人が支援を受けていた場所や人（通所先・相談支援機関）が、次の支援に繋がられることで、支援の質の向上にもつながると思います。支援の効率化他

日中活動系サービスについて

■意見 1

- ・数字からだけでは見えない部分

重度心身障害の方の生活介護の施設について、まなびや（生活介護）一択になっていないかという意見が出ていました。重心の生活介護でもいくつかタイプがあっても良いのかもしれない、という生活介護のバリエーションを指摘。実はまだ潜在的なニーズがあり、今ある施設との方々のニーズのマッチングが出来ていない可能性を話し合われていました。

→例…自力通所困難だけど中軽度の方が利用したい、生活介護通所施設

- ・サービスを数的に増やすこと

国の方針も踏まえて調布市の目標を立てすすめていくことは、とても大事なことという話もあった中、「現サービスを利用されている利用者の満足度はどのくらいなのか」知る機会も必要という意見も出ていました。満足度を上げることで、現サービスがあってよかった等の意見を集約し、さらに質の向上につながるかもしれません。

居住系サービスについて

■意見 I

・「入所施設を減らして GH を増やす・支援をそちらに移行する」

この考えは、ご本人のニーズがそうなのか疑問という話題が出ました。様々な視点でこの考えはメリットデメリットがあると思います。その個々の利用者に合った支援を行うことが大切で、その中で地域移行をすることが望ましい方もいると思います。すべての方が「地域移行」というよりは「その人に合った支援→結果→地域移行」が望ましいと感じました。

：なごみの現状の利用者の多くは

- ①重度の方が多い…移行する意思を汲み取ることも難しい
- ②利用者で高齢化（70～80 代の方）が進んでいるため、制度の問題もあり
- ③家族の理解…せっかく入所施設に入れたのに、長く住んでおり今引越しをするのは負担（金銭面など含む）

その他

■意見 I

○学校関係者との連携がとても必要になっています。

ある特別支援学校高等部の教員から、「中学校の進路を決める段階で、高校のマッチングをしっかりしてほしい」といった話が出ていました。

特別支援中等部の教員が、高校を選ぶ際に、どのように選択・アドバイス・進路相談などをしているのか疑問。きっかけは、高校に進学した生徒さんがその学校の方針などにマッチしていないことが見られているためでした。

その他伴走者としての児童の対応をする相談支援機関が、大人になったら利用する福祉サービスを念頭に置きながら、児童期などにおける方向性を支援して行ってほしい。また、成人期へ引継ぎも行ってほしいと思います。

※実際にしっかり行っていたら申し訳ありません。